ウェブ版はこちら。データとレーティングはウェブ版の最新版を正とする
alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w44

グローバルマクロ週報 · 2026年第44週（10/26〜10/30）

ボベスパ指数は18.1%下落、KOSPIは3.3%上昇、MSCI ACWIは0.5%下落 **ブラジル大統領選の結果で株式と通貨が同時に下落し、主要中銀は据え置きつつ引き締め姿勢を維持した**

今週のMSCI ACWI（ドル建て）は0.48%下落し、地域差が大きかった。ブラジル大統領選の決選投票後、ボベスパ指数は18.12%下落、レアルは対ドルで6.22%下落し、ドル建てでは約23.2%の下落となった。独DAXは2.53%、韓国KOSPIは3.25%上昇し、上海総合指数は2.48%下落した。FRB、ECB、日銀はいずれも金利を据え置いたが、反対票または利上げの議論があった。カナダ銀行は0.25ポイント利上げし2.50%とした。ドル指数は101.88で変わらずであった。

世界株（MSCI ACWI、ドル建て）	ユーロ圏・ストックス50	日本・日経平均	香港・ハンセン	ドル指数
-0.5%	+1.0%	+1.0%	+0.9%	101.88
終値 156.04	終値 6,131.31	終値 63,290.11	終値 23,294.42	週間 +0.07

ブレント原油
+0.8%
終値 117.64

01

今週の要点

ブラジル決選投票でルラ氏が勝利、ボベスパ指数は1日で13.9%下落、レアルは8%超下落

10月25日のブラジル大統領選決選投票でルラ氏が約51.8%の得票で勝利した（Rio Times）。10月5日の第1回投票後、市場はフラビオ・ボルソナロ氏の勝利を織り込んでおり、週初にその上昇分が失われた。10月26日のボベスパ指数は13.88%安の17万6608で引け、レアルは同日に対ドルで8%超下落した。株価指数先物は値幅制限に達して取引が停止され、財務省は10月27〜29日の国債入札を中止した（MercoPress）。ブラジル銀行は27.3%、ブラデスコは21.2%下落した（Trading Economics）。

週間ではボベスパ指数が18.12%安の16万7922、レアルが6.22%安の5.38となり、ドル建てでは約23.2%の下落である。市場の焦点は財政運営で、公的債務はGDP比80%を超え、ルラ政権下で財政が緩むとの見方が強い。ブラジル中銀は11月4日に金利を決定し、通貨安は追加利下げの余地を狭める可能性がある（推測）。

主要中銀は据え置き、カナダ銀行は利上げ、反対票と指針はいずれも引き締め方向

FRB（10月28日）は10対2で3.75～4.00%に据え置き、2人が利上げを主張した。12月利上げの織り込みは8割程度である（FRB、CNBC）。**ECB**（10月29日）は預金ファシリティ金利を2.50%に据え置いた。ラガルド総裁は理事会で利上げも議論したと述べ、短期金融市場は12月利上げを約67%織り込んだ。9月のユーロ圏インフレ率は3.8%である。同総裁は任期前の退任も表明した（CNBC、Irish Times）。

日銀（10月30日）は8対1で1.25%程度に据え置き、高田委員は1.50%への利上げを提案した。ETFの売却ペースを2027年1月から年間約3300億円から約8600億円（簿価ベース）に引き上げることも決めた（日本銀行）。**カナダ銀行**（10月28日）は0.25ポイント利上げして2.50%とし、エネルギー高が持続的で広範なインフレにつながれば追加利上げが必要になり得るとした（カナダ銀行）。来週は豪準備銀行とイングランド銀行の利上げが見込まれている。

アジアのハイテク株は値動きが荒く、KOSPIは週間で上昇、台湾と中国本土は下落

KOSPIは週間で3.25%上昇したが、日々の変動は大きく、10月28日に6.63%高の6012.44と最高値を更新した後、10月30日に3.48%安の5730.74となった。SKハイニックスの7～9月期営業利益は621億ドル、営業利益率は約80%、サムスン電子の半導体部門の営業利益は約800億ドルであった（UPI）。インテルの見通しが市場予想を下回ったことを受け、金曜はアジアの半導体株が下落し、台湾加権指数は同日2.49%、週間で1.80%下落した。

上海総合指数は金曜に1.44%安の3599.02となり、週間で2.48%、10月で6.33%下落した（Ad-hoc News、新華社）。MSCI新興国ETF（ドル建て）は1.56%下落した。欧州株は堅調で、DAXは2.53%、CAC40は2.40%上昇した。ユーロ圏の7～9月期GDPは前期比0.4%増であった（Bastille Post）。

> 今週の地域間の差は主にブラジルの選挙と半導体株の変動によるものであり、主要中銀は据え置いたものの、政策議論は追加利上げが中心である。

02

世界の株式市場

週間騰落（現地通貨建て）

韓国・KOSPI +3.3% 年初来 +36.0%	ドイツ・DAX +2.5% 年初来 +5.4%	スイス・SMI +2.4% 年初来 +11.6%	フランス・CAC40 +2.4% 年初来 -2.2%	インド・Nifty50 +2.0% 年初来 -11.8%	豪州・ASX200 +1.3% 年初来 +2.2%
ユーロ圏・ストックス50 +1.0% 年初来 +5.8%	日本・日経平均 +1.0% 年初来 +25.7%	香港・ハンセン +0.9% 年初来 -9.1%	英国・FTSE100 +0.4% 年初来 +8.0%	メキシコ・IPC -0.1% 年初来 +8.5%	カナダ・TSX -0.5% 年初来 +12.3%
世界株（MSCI ACWI、ドル建て） -0.5% 年初来 +11.0%	米国・S&P500 -0.6% 年初来 +10.7%	新興国株（MSCI EM、ドル建て） -1.6% 年初来 +12.2%	台湾・加権指数 -1.8% 年初来 +56.1%	中国・上海総合 -2.5% 年初来 -9.3%	ブラジル・ボベスパ -18.1% 年初来 +4.2%

各国指数は現地通貨建て。MSCI ACWI と新興国（EEM）はドル建て ETF。

現地通貨ベースではKOSPI（+3.25%）、DAX（+2.53%）、SMI（+2.41%）が好調で、ボベスパ指数（-18.12%）、上海総合指数（-2.48%）、台湾加権指数（-1.80%）が低調であった。S&P500は0.57%下落、日経平均は0.95%上昇した。

ドル建てに換算すると、ボベスパ指数は約23.2%下落、KOSPIは約2.3%上昇（ウォン0.90%安）、日経平均は約0.1%上昇（円0.83%安）、Nifty50は約1.5%上昇（ルピー0.46%安）、DAXは約2.2%上昇（ユーロ0.34%安）となる。

03

主要通貨の対ドル相場

対ドルの週間騰落

人民元 +0.3% 年初来 +5.0%	豪ドル +0.1% 年初来 +4.9%	ポンド -0.2% 年初来 -0.7%	ユーロ -0.3% 年初来 -4.8%	スイスフラン -0.5% 年初来 -3.9%	ルピー -0.5% 年初来 -5.7%
メキシコペソ -0.7% 年初来 -4.6%	円 -0.8% 年初来 -0.9%	ウォン -0.9% 年初来 +7.5%	レアル -6.2% 年初来 +1.7%		

プラスは当該通貨の対ドルでの上昇を示す。

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
人民元	USD/6.6610	+0.3%	+5.0%
豪ドル	0.7027	+0.1%	+4.9%
ポンド	1.3379	-0.2%	-0.7%
ユーロ	1.1183	-0.3%	-4.8%
スイスフラン	USD/0.8236	-0.5%	-3.9%
ルピー	USD/95.15	-0.5%	-5.7%
メキシコペソ	USD/18.85	-0.7%	-4.6%
円	USD/157.80	-0.8%	-0.9%
ウォン	USD/1,337.98	-0.9%	+7.5%
レアル	USD/5.3848	-6.2%	+1.7%

ドル指数は週末 101.88（+0.07）。USD/ 表記は1ドルあたりの通貨量。

主要10通貨のうち8通貨が対ドルで下落し、ドル指数は101.88で変わらずであった。

ブラジルレアル（-6.22%）の下落が最大で、5.38で引けた。ウォン（-0.90%）、円（-0.83%）、メキシコペソ（-0.70%）が続いた。円は157.80円で引け、日銀の据え置き後の変動は小さかった。ユーロ（-0.34%）は1.1183で引け、スイスフラン（-0.46%）とインドルピー（-0.46%）は小幅安であった。人民元（+0.25%）と豪ドル（+0.10%）は上昇し、人民元は6.661で引けた。豪ドルは利上げ観測を背景に底堅く推移した（推測）。

04

金利と金融政策

中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
FRB	3.75〜4.00%	10月28日 据え置き（10対2、2人が利上げ主張）	12月8〜9日
ECB（預金ファシリティ金利）	2.50%	10月29日 据え置き	12月17日

中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
日本銀行	1.25%程度	10月30日 据え置き（8対1、1人が利上げ主張）	12月17～18日
イングランド銀行	3.75%	9月17日 据え置き（6対3、3人が利上げ主張）	11月5日
スイス国立銀行	0%	9月24日 据え置き	12月10日
豪準備銀行	4.60%	9月29日 0.25ポイント利上げ（全会一致）	11月3日
カナダ銀行	2.50%	10月28日 0.25ポイント利上げ	12月9日
中国人民銀行（1年 / 5年 LPR）	3.00% / 3.50%	10月20日 据え置き	11月20日（LPR公表）
インド準備銀行	5.50%	10月7日 0.25ポイント利上げ（全会一致）	12月4日
ブラジル中銀（Selic）	13.75%	9月16日 0.25ポイント利下げ	11月4日
メキシコ中銀	6.50%	9月24日 据え置き	11月5日

各中央銀行の公表資料に基づき、発行時に確認。

米国債	週末値	週間変化	年初来
米2年債	4.61%	-8bp	+114bp
米10年債	4.98%	-2bp	+80bp
米30年債	5.32%	-1bp	+48bp
10年実質金利（TIPS）	2.63%	-3bp	+70bp
10年ブレークイーブン・インフレ率	2.34%	+0bp	+9bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
オーストラリア	2026-09	5.28%	+27bp
英国	2026-09	5.24%	+25bp
フランス	2026-09	4.48%	+45bp
イタリア	2026-08	3.99%	+11bp
カナダ	2026-09	3.88%	+21bp
ドイツ	2026-09	3.47%	+28bp
日本	2026-09	3.05%	+11bp

OECD の月次データ（FRED 経由）で、通常1～2カ月遅れ。水準の確認用で、今週の動きは下の債券 ETF と本文を参照。

債券 ETF	週間	1カ月	年初来
米長期国債（TLT）	+0.6%	+5.6%	-2.8%
米ハイイールド債（HYG）	+0.5%	+0.7%	+0.4%
新興国ドル建て債（EMB）	+0.4%	+1.8%	-0.5%
米国外投資適格債（BNDX、ヘッジあり）	+0.3%	+1.4%	+0.2%
米国外国債（BWX、ヘッジなし）	+0.1%	+1.3%	-3.2%

債券価格と利回りは逆に動くため、ETF の下落は利回りの上昇を意味する。

米国債：木曜時点（FRED）で2年債利回りは8bp低下の4.61%、10年債は2bp低下の4.98%、30年債は1bp低下の5.32%となり、金曜の10年債は4.93%程度に低下した（CNBC）。利回り低下は主に短期債と株安の日に集中した。10年実質金利は3bp低下の2.63%、ブレークイーブンは2.34%で変わらずであった。

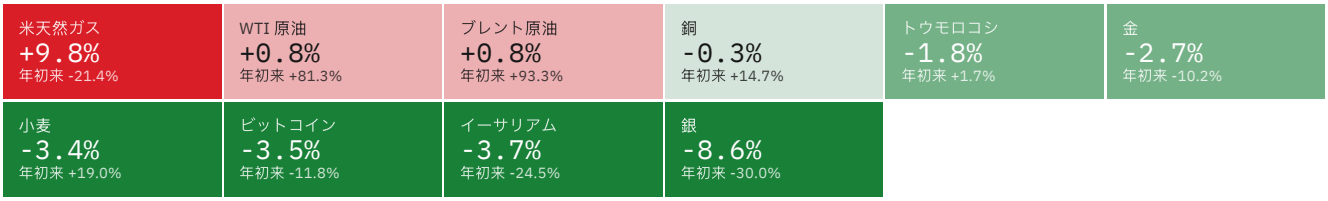
その他の国債：OECDの月次データによると、9月の10年債利回りは英国5.24%、豪州5.28%、フランス4.48%、ドイツ3.47%、日本3.05%で、いずれも8月を上回った。財務省データでは日本の10年債利回りは10月30日に2.817%である。債券ETFは小幅高で、TLTは0.61%、HYGは0.49%上昇した。

中銀：今週据え置いた中銀はいずれも追加利上げの可能性を残した。ブラジルの11月4日の決定については市場の織り込みが割れている。

05

商品・暗号資産

週間騰落（ドル建て）



資産	直近	週間	1カ月	年初来
米天然ガス	2.90	+9.8%	-4.2%	-21.4%
WTI 原油	104.12	+0.8%	+15.2%	+81.3%
ブレント原油	117.64	+0.8%	+13.6%	+93.3%
銅	6.46	-0.3%	-1.5%	+14.7%
トウモロコシ	447.75	-1.8%	-10.6%	+1.7%
金	3,898.90	-2.7%	-6.9%	-10.2%
小麦	603.50	-3.4%	-10.7%	+19.0%
ビットコイン	77,198.21	-3.5%	-7.6%	-11.8%
イーサリアム	2,241.05	-3.7%	-16.5%	-24.5%
銀	49.10	-8.6%	-18.3%	-30.0%

原油・天然ガス・金属・穀物は期近先物。

原油：WTIは0.82%高の104.12ドル。ブレント12月限は金曜に満期を迎え、清算値は117.64ドルと0.79%高であった。1月限の清算値は113.43ドルで、差は限月交代によるものである。ホルムズ海峡の航行リスクは続いており、英海事当局は金曜にタンカーが爆発物の攻撃を受けたと報告した（FinanceFeeds）。

金属：金は2.72%安の3898.90ドル、銀は8.59%安の49.10ドル、銅は小動き（-0.27%）であった。貴金属の下落は利上げ観測の継続と整合的である（推測）。

農産物・エネルギー：トウモロコシは1.81%、小麦は3.44%下落した。米天然ガスの期近つなぎは9.77%上昇し、限月交代の影響を含む可能性がある（推測）。

暗号資産：ビットコインは3.53%安の7万7198ドル、イーサリアムは3.69%下落した。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
11/3	豪準備銀行の金融政策決定	豪4大銀行は0.25ポイント利上げで4.85%を予想しており、2026年で5回目の利
11/3	米中間選挙	結果は上下両院の支配に影響する。同週にはアップル、AMDなどの決算も控える
11/4	ブラジルSelic決定、ユーロ圏10月HICP速報	レアル急落後の金利方針が焦点で、市場の織り込みは割れている。ユーロ圏の9
11/5	イングランド銀行の決定と金融政策報告、メキシコ中銀の決定	ロイター調査は0.25ポイント利上げで4.00%を予想し、英国の9月インフレ率は
11/6	10月米雇用統計	市場予想は雇用者数5.5万人増、失業率4.2%で横ばい。12月利上げの織り込みと

07

データの定義と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 − 1（2026-10-26～2026-10-30）。休場の市場は直近の取引日。

株価指数・為替・商品・暗号資産・債券 ETF は Yahoo!ファイナンス（遅延あり）、米国債利回りは FRED、その他の10年国債利回りは OECD 月次データ（FRED 経由）。

為替は各通貨の対ドルでの騰落に統一し、プラスは通貨高を示す。

MercoPress：ブラジル市場（10月26日）、Trading Economics：ボベスパ指数、Rio Times：選挙結果、FOMC声明、CNBC：FRB、CNBC：ECB、Irish Times：ラガルド総裁、日本銀行公表文、カナダ銀行、UPI：韓国半導体決算、Ad-hoc News：上海総合指数、新華社、Bastille Post：ユーロ圏GDP、FinanceFeeds：ブレント、investingLive：豪準備銀行、HomeOwners Alliance：イングランド銀行。FREDの米国債データは10月29日時点である。ドル建てリターンは指数と為替の週間変化率を掛け合わせた推計である。

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-10-30 · 雅虎财经（股指、汇率、商品、加密资产、债券 ETF）；FRED（美债收益率、OECD 各国 10 年期国债收益率）

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w44 · 2026-11-02 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。